

兵庫 県
保険 協
医 会

西宮 芦屋 支部 ニュース

No. 313

2013・6・15

発行
〒662-0074

兵庫 県 保 険 医 協 会
西宮市石劔町十八ー八

大森内科医院内
西宮・芦屋支部
電話 〇七八(三九三)一八〇一

第29回在宅医療研究会 患者・家族の気持ちを受け止める難しさ学んだ

5月18日、西宮市民会館で「終末期の在宅がん医療について」をテーマにした第29回在宅医療研究会を開催。前田倫先生(西宮市立中央病院 麻酔科・ペインクリニック科、大阪大学麻酔科学教室 臨床教授)、藤川晃成先生(協和マリナホスピタル 緩和ケア内科部長)、井上綾子氏(医療法人社団西岡医院 訪問看護ステーション福寿草)の3人が講師、川崎史寛先生(西宮市・川崎医院)が司会を務め、医師・看護師ら70人が参加した。参加いただいた先生の感想文を掲載する。

5月18日に西宮市民会館で開催された終末期の在宅がん医療についての研究会に参加いたしました。

疼痛管理について、西宮市立中央病院麻酔科・ペインクリニック科の前田倫先生より従来の各オピオイドや最新のオピオイド(メサドン)の特徴・選択法を教えてくださいました。また、症例を交え

ながら脊髄鎮痛法の適応やITポート留置による利点などを説明していただき、今後の緩和ケアに役立つ専門性の高い情報を得ることができました。

緩和ケアについて、協和マリナホスピタル緩和ケア内科の藤川晃成先生より、がん医療の抱える課題や、施設ホスピスケアの現状と在宅緩和ケアとの比較など、実践に基づいた講演を聴かせていただきました。

訪問看護について、訪問看護ステーション福寿草の井上綾子看護師より、経験された二例の症例が報告され、在宅緩和ケアにおいて、病態の進行とともに変わりゆく患者様・家族様のお気持ちをどう受け止めていくか、あらためてその難しさを感じました。

在宅医療において、がん緩和ケア・取りの症例はますます増えていくことが予想されます。時代の流れとともに死生観も多種多様となり、マニュアルに当てはまらない個別性の高い対応が求められるていくなかで、今回の研究会の講演内容を参考にして、医療機関・多職種との連



右から、司会を務めた川崎先生、講師を務めた前田先生、藤川先生、井上氏。それぞれの立場から、末期がんの患者とその家族がおかれた現状や緩和ケアの実践などについて講演した。



医師、歯科医師、看護師、ケアマネなど、多業種の方々が参加した

死生観を考える ～第3回ファイアサイド・ディスカッション～

日時：6月29日(土) 15時～17時

会場：西宮市民会館 中会議室 401

講師：西宮市 伊賀内科・循環器科
伊賀 幹二 先生

参加費：無料

※お問い合わせは、協会事務局まで Tel:078-393-1803

世話人会だより

西宮・芦屋支部は5月24日に西宮医療会館で世話人会を開催。4人が参加した。

【報告】

- ①職員接遇研修会(5・11)
- ②第29回在宅医療研究会(5・18)

【予定・企画】

- ①第20回医療過誤訴訟セミナー(6・15)
- ②第3回ファイアサイド・ディスカッション(6・29)
- ③第12回胸部X・P読影会(7・5)
- ④第33回支部総会(8・10)
- ⑤保険請求事務講習会(西宮会場)(9・21)
- ⑥第25回日常診療ガイドライン【協会行事】
- ①第45回総会(6・16)
- ②保団連第43回夏季セミナー(7・6)

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

携を築きながら、患者様・家族様の意思・希望に沿ったケアが提供できるよう努めていきたいと思います。次回の研究会も、実践に役立つ情報を期待します。
【尼崎市・大隈病院 土山 布佐子】

職員接遇研修会

明日からの診療に活かせる接遇研修

5月11日、西宮市立勤労会館で「接遇コミュニケーション研修」をテーマに職員接遇研修会を開催。粟村和子氏(人財育成講師、産業カウンセラー)が講師を務め、医師・メディカルスタッフら49人が参加した。司会を務めた安岡眞奈美先生(西宮市・安岡クリニック)の感想文を掲載する。

5月11日、接遇について「人財育成プログラム セラ・ムーブ」よりお越しの粟村和子先生が、研修会をされた。

接遇とは、体中のセンサーを駆使して患者さんのあらゆることに気づくということから始まる。身だしなみは、清潔感・安心感に結びつくものであること。立ち居振る舞いは、座位なら坐骨を感じるように座ると美しく座われること、お辞儀



講師を務めた粟村氏



研修会では美しい座り方やお辞儀の仕方などについても解説された

私的には、出勤前に自己の体調を知り、それを受け入れて出務に臨むということが自分も楽にし、仕事に励める、すなわち無理せずがんばれるという重要性を知り、明日からの診療に活かされればと思つた。

【西宮市・安岡クリニック 安岡 眞奈美】

(当日アンケートより抜粋)

*何より、気持ちよく仕事をして、患者さんにも気持ちよく接するためには、相手を大切に思う気持ちと、自分自身を大切に感じる事が、すべての接遇において基本であると感じました。スタッフ間の言語についても、たいへん参考になりました。(リハビリ助手)

*自分の生き方を考えさせられる内容でした。自分の体調の悪さ、心にゆとりがない時ほど、それを気づかれないように無理してがんばってしまいます。「呼吸」を感じられる私になろうと思えました。(リハビリ助手)

*今まで思っていた接遇とは概念が違い、目から鱗が落ちたようでした。(事務)

*接遇は、職種によって異なるので、それぞれで気づきながら行っていく必要があると思えました。(看護師)

*お辞儀を理屈で説明していただけたり、とにかく「ガイコツ君」(小さな骨のみの人形)を用いての説明は、とても頭の中に入りました。(事務長)

西宮・芦屋支部 第33回総会記念市民公開企画 『ミツバチの羽音と地球の回転』 上映&トーク

日時：8月10日(土) 14時30分～
総会議事 14時～ 懇親会 17時30分～

会場：西宮市立勤労会館大ホール

お話し：映画監督
鎌仲ひとみ 氏

入場料：無料
※どなたでもご参加いただけますが、できる限り事前のお申込みをお願いいたします。



今年の総会記念市民公開企画は、脱原発を国民投票で決めて2020年までに石油にも依存しない社会づくりをめざしているスウェーデンと、新たな原発の建設計画が進められている山口県上関町にある祝島取材したドキュメンタリー映画『ミツバチの羽音と地球の回転』を上映し、鎌仲ひとみ監督のお話をうかがいます。多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

鎌仲ひとみ さん 略歴：

映像作家。早稲田大学卒業後、現場でドキュメンタリー制作を学ぶ。カナダ・NYを経て95年帰国後テレビ番組、映画を多数監督。イラク取材をきっかけに、核を巡る三部作「ヒバクシャー世界の終わりに」(03年)「六ヶ所村ラプソディー」(06年)「ミツバチの羽音と地球の回転」(10年)を発表。最新作は「内部被ばくを生き抜く」(12年)。制作スタイルは完全な自主制作であり、その配給も劇場に加え、市民による自主上映を展開し、その回数は国内外で合わせて3000回を超える。目下、新作「小さき声のカノン ー選択する人々ー」を準備中。



◆お問い合わせは、協会事務局 岡林・山田・伊藤まで Tel:078-393-1803 ◆